

県知事 吉村 美栄子様
オール山形「克服・創造会議」の皆様へ

ご報告

9月4日の開催ご案内を頂き、出席の準備をしておりましたが、予定の変更がかなわず、残念ながら今回は欠席とさせていただきます。大変申し訳ありません。

まず、吉村県知事をはじめ、ご参加の皆様、県担当職員の皆様のコロナ対策と豪雨被害対策にあたられている皆様に心から敬意を表し、収束と復旧・復興をご祈念致します。

先日、吉村知事からコロナ禍における誹謗・中傷はとても残念で許すことはできないという発信がありました。そのことは特に重要と考えます。引き続きよろしく願いいたします。

さて、9月の朝刊に8月31日の段階で派遣労働者の「解雇・雇い止め」は5万人を超えたと報道されました。急激に失業者が増える傾向は今後も大変懸念される状況にあると思います。東北では全体で約4600人が失業し、山形県は363人（東北では最小値）であったことも報道されました。私はこれらの数値は「雇用を守る対策」の総合的な評価となるものであり、今後も注視していかなければならないと考えております。

連合山形では300人未満の職場に2回目のアンケートを実施しています。前回（4月実施）は88組織から、そして、今回は126組織から回答を頂きました。前回より様々な影響が出てきていることが予想され、意識の高まりを感じ取ることができました。

調査の結果は、「雇用対策」として正規・パート・有期契約労働者の解雇が若干ではあるが増加しており、休業関係では10ポイント、在宅勤務や自宅待機は5ポイントほど増加、リモートでの会議では64%で実施と高い数値になりました。また、「安全衛生対策」では消毒液設置は100%、3密回避徹底は98%、こまめな換気は96%、長時間の時間外を避け疲労蓄積に配慮するが74%など、新たな生活様式の改革は確実に進んでいる実態は明らかとなりましたが、コロナによる影響はあらゆる分野に広がっており、県民の生活不安はまだまだ続いています。以上、働く者の現状を簡単に報告させていただきました。

人の命と生活を守るため、これまで同様、『雇用を守る』ための施策がこれからも必要です。施策継続を心よりお願いいたします。県民のみなさんと共にこの難局を乗り切ることがを申し上げ、書面での参加とさせていただきます。

共に、がんばりましょう。

2020年9月4日

日本労働組合総連合会山形県連合会
会長 小口 裕之